

講義名	心理学演習（体験型コミュニケーション）			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

SNSの普及は利便性ととも、以前には見られなかった新しい形式で人と人とを繋ぐツールを私たちの日常生活にもたらした。他方、SNSの普及により、直接他者と対面してコミュニケーションをとりながら人間関係を構築することに苦手意識をもつ若い世代を生み出してきたことも否めない。本コースでは、「ラボラトリー方式」による体験学習を通じてグループメンバーとの対面によるコミュニケーションを実践することにより、社会で生き抜くための実践的なコミュニケーション力を培うことを目標とする。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

- (1) グループ活動を通じて自分のこれまでの他者との関わり方を見直すことができる。
- (2) 良好な人間関係の構築について、考察を深めることができる。
- (3) 自分自身を見つめ直し、自己分析する方法を探ることができる。
- (4) 多様な視点で物事を捉えることができるようになる。
- (5) ビジネスマナーやビジネス心理学の概念を学び、学習事項を将来に役立てることができる。
- (6) 文化とコミュニケーションとの密接な関係を理解できるようになる。

提出課題

授業内容は、「自己理解」「ビジネスマナー」「ビジネス心理学」「異文化間コミュニケーション」というビジネスコミュニケーションに必須の4本柱で構成されている。上記のテーマの一部については、登壇の準備として課題をUka Portalの「講義連絡」に掲載するので、期限までに提出する。また、授業後は毎回の授業活動に対する考察を「学びと気づきの振り返りシート」に執筆し、期限までに提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回、授業後に振り返りシートの執筆を課す。登壇の授業の最初に匿名でクラスメートの振り返りシートの幾つかを教員が紹介、コメントし、クラスで共有する。その他の課題に対する受講生の回答を授業中に共有し、テーマに対する理解を深める。

評価の基準

(1) 課題 (60%)
(2) 定期レポート試験 (40%)
*出席の扱いについては、第1回目の授業で説明する。

履修にあたっての注意・助言他

(1) コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
(2) 講師が入室したときに教室にいない学生は連絡先と見なす。特別な理由がない限り遅刻厳禁。
(3) 15分以上の遅刻は欠席となる。また、5回以上欠席すると定期試験の受験資格を失い、単位を取得することができない。遅刻するとその日のワークに参加できなくなり、振り返りシートも提出できなくなるので注意すること。
*詳細は、第1回目の授業で知らせる。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

必要に応じて、適宜、「講義連絡」に掲載する。

授業計画

回	授業内容
1.	コースガイダンス；円滑なビジネスコミュニケーションのための4つの要素とは
2.	ビジネスコミュニケーション1（敬語トレーニング1、人間関係の心理学1、自分を知る、コンテキストとコミュニケーション）
3.	ビジネスコミュニケーション2（敬語トレーニング2、人間関係の心理学2、変身ゲーム、文化と言語表現）
4.	ビジネスコミュニケーション3（敬語トレーニング3、人間関係の心理学3、文章に表れる自己、文化と契約観）
5.	ビジネスコミュニケーション4（敬語トレーニング4、人間関係の心理学4、私の20の面、ビジネス現象）
6.	ビジネスコミュニケーション5（敬語トレーニング5、人間関係の心理学5、自己開示、文化と時間感覚）
7.	ビジネスコミュニケーション6（敬語トレーニング6、人生の意義と心理学、言い換え表現1、文化と友人の概念）
8.	ビジネスコミュニケーション7（敬語トレーニング7、やる気の心理学1、言い換え表現2、文化的配慮）
9.	ビジネスコミュニケーション8（敬語トレーニング8、やる気の心理学2、発想の転換、会話における文化差）
10.	ビジネスコミュニケーション9（敬語トレーニング9、やる気の心理学3、原因推察、文化と社交辞令）
11.	ビジネスコミュニケーション10（敬語トレーニング10、やる気の心理学4、こころの支え、文化と援助）
12.	ビジネスコミュニケーション11（敬語トレーニング11、リーダーの心理学1、投函しない手紙、文化と家族観）
13.	ビジネスコミュニケーション12（敬語トレーニング12、リーダーの心理学2、カウンセリング体験、文化と金銭感覚）
14.	ビジネスコミュニケーション13（敬語トレーニング13、リーダーの心理学3、互恵的援助関係、文化と宗教）
15.	ビジネスコミュニケーション14（敬語トレーニング14、リーダーの心理学4、10年後のあなたへ、文化と偏見）

* 授業の進捗状況により、内容を調整する可能性がある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：前回の授業の復習。および、登壇の授業準備のための課題に取り組み。（約2時間）
復習：その日の授業内容を復習し、理解を深めるとともに、講義内容や授業活動に対する振り返りシートを執筆する。（約2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースは以下の点において、人間社会学部心理コースのディプロマポリシーに貢献する。
(1) 講義の取組を通じて、自己理解とともに人々の心理を理解し、同時にコミュニケーション能力を培うことは、よりよい人間社会の創造につながる。
(2) 毎回の課題に対するクラスメートの意見やフィードバックを知ることで、個々人の体験をクラスで共有する。また、個々人が学習事項を内省することで、日常生活だけでなく、ビジネスや援助場面等、その他の様々な社会生活の場面における実践へとつなげることができる。
(3) 授業では異文化トレーニングや対人コミュニケーションの理論に基づき、体験学習を実践するが、その際、実践だけではなく、人の心理と行動に関する知識も深めることができ、ビジネス場面や援助場面で応用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回、授業後に振り返りシートの執筆を課す。登壇の授業の最初にクラスメートの振り返りシートの幾つかを教員が紹介、コメントし、共有する。受講生からの質問は、随時、振り返りシートを通じて受け付け、登壇の授業または講義連絡を通じて回答する。

実務経験の有無及び活用

備考

「体験学習」をテーマにしたこの授業では、皆さんの積極的な活動への参加と授業に先立つ課題の提出が非常に重要です。授業に関する連絡は「講義連絡」を通じて行いますので必ず確認してください。